



FÛ

EN

楓園

CONTENTS

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 — 特集 ピアノ科120年の歩み | 9 — 中高部 NEWS |
| 5 — 大学 NEWS | 10 — 大学 NEWS・学院 NEWS |
| 7 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえて幼稚園 NEWS | 11 — 英和の植物通信・お知らせ |
| 8 — 小学部 NEWS | |



■ピアノ科120周年

写真は1940(昭和15)年3月のピアノ科卒業リサイタルでのE.C.ヘニガー先生と松本(現 加藤)裕子さんです。当時はピアノ科でも卒業生と同じ数の水仙が講壇に飾られていました。

ピアノ科一二〇年の歩み

ピアノ科主任 丸山もと子

主の慈しみに生きる人々よ
主に賛美の歌をうたい
聖なる御名を唄え、感謝をささげよ。

詩編 三〇編五節

ピアノ科一二〇周年記念音楽会

一昨年は東洋英和女学院にとって大変喜ばしい年でした。学院は創立一二〇年を迎え、数々の記念行事を通して感謝と喜びを共に分かち合いました。学院創立二年後の明治一九（一八八六）年にスーゼ・カックラン、モード・カックラン、S・A・ウインタ

ミュートの三名の先生方により、ピアノ・オルガンのレッスンが始まりましたのがピアノ科の起源です。本年度創設一二〇周年の記念すべき年を迎えました。ピアノ科では、歴代の先生方の献身的なお働きの下に今日まで守り導かれた事を感謝して、さらに新しい一歩を進みゆくために、「ピアノ科一二〇周年記念音楽会」を十一月十一日（土）午後一時新マーガレット・クレイグ記念講堂において催すことに致しました。

記念音楽会では、独奏・連弾に加え二台のピアノによるアンサンブルに器楽を加えたピアノ科オリジナル版「動物の謝肉祭」を企画致しました。二台のピアノを四人で弾く八手用の楽譜は、生徒の顔を思い浮かべながら先生方が編曲しました。中高部器

楽科講師によるコントラバス、チェロ、フルート、クラリネット他の楽器も加わり、終曲は先生方が演奏して幕を閉じます。きっと面白い音楽会になることでしょう。

各学部の掲示板には、生徒達が画いたポスターが張り出されることと思います。この音楽会に集うすべての人々が、一二〇年の歴史を心から感謝し、楽しむことができる音楽会となるよう祈りつつ準備しております。

音楽会にはどなたでも御入場頂きますが、座席数の関係上事前にお問い合わせ下さい。
（〇三）三五八三・〇六九六 内線二二三

ピアノ科について

東洋英和女学院のピアノ科は、他に類のないきわめて特色ある課外の制度です。これは、学院の中にあるながら幼・小・中・高いずれの部にも属さず、また幼稚園から高等部までのどの部の園児・児童・生徒も希望すればピアノ科に所属できるという点で特徴的な制度です。現在、毎週一回、月曜日から金曜日までの昼休みと放課後に一人三〇分の個人レッスンを、また小学部一年生から三年生まで

の希望者にはソルフエージュのグループレッスン（五人前後）を行っています。二〇〇六年度は、一二名の教師のもと二五二名が学んでいます。

●ピアノ科の場所

皆様はピアノ科がどこに在るのかご存知ですか？ 高等部校舎の一階、ちょうど新マーガレット・クレイグ記念講堂の真下、車道に面した側にあります。廊下から防音ドアを開けて入ると、レッスン室七つと教師室があり、グランドピアノ三台、アップライトピアノ七台が備えられています。

●120周年記念音楽会プログラム



～♪～ ピアノ科120周年記念音楽会 ～♪～

2006年11月11日（土）13：00開演
新マーガレット・クレイグ記念講堂

第1部 ソロ・連弾

ウェーバー：行進曲（4手連弾）
シューマン：幻想小曲集より 飛翔
ショパン：ポロネーズ「英雄」 他



第2部 サンサーンス：組曲「動物の謝肉祭」
(ナレーション付き)

序奏とライオンの行進
めんどりとおんどり
らば
かめ
象
カンガルー
水族館
耳の長い登場人物
森の奥に住むかっこう
鳥かご
ピアニスト
化石
白鳥
フィナーレ

演奏：幼・小・中・高のピアノ科生徒
賛助出演：器楽科講師 他



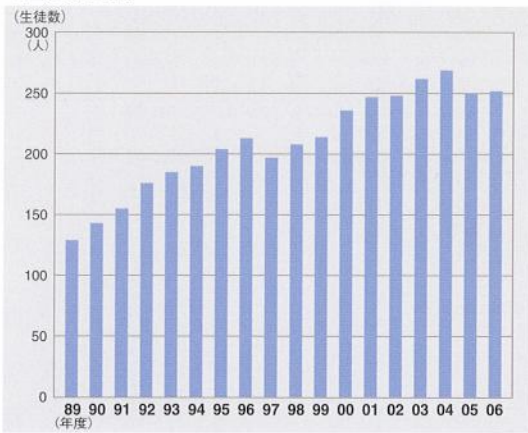
小学生のレッスン



中高部1階にあるピアノ教室

●グレードテスト
ピアノ科の生徒は一級（初級）から六級（最上級）までの六段階のいずれかの級に属しています。担当教師の判断と本人の意志によって、課題曲・自由曲・初見・ソルフェージュ等の課題を勉強してグレードテストを受けます。合格しますと学院から修了証書を頂いて、進級することになります。この制度は、ミス・ハミルトンが校長になられた一九三〇年頃、学則改正によって「音楽科」から「ピアノ科」に変わった時に設定されたようです。それはカナダ・トロント市の公立音楽学校の制度によるものであったと記されています。
グレード制度は生徒にとっても大きな励みであり、東洋英和ピアノ科を特徴づける伝統ある制度なのです。

●生徒数の推移



●2006年度ピアノ科学年別実習生徒数

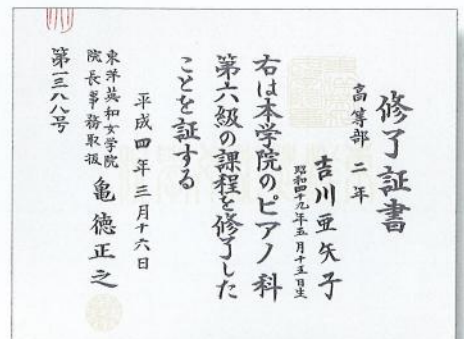
学年	実習生徒数	
	人数	割合
幼小	年中	9
	年長	8
	1	21
	2	24
	3	23
	4	27
中	5	28
	6	21
	1	22
	2	27
	3	16
	1	15
高	2	7
	3	4
	計	252
ソルフェージュ	小	1
	2	15
	3	0
	計	31

●2006年度ピアノ科年間予定表

月	日	内容
4月	7(金)	小学部(継続生)オリエンテーション
	中旬	レッスン開始
	26(水)	教師会
	27(木)	ピアノ科委員会
5月	下旬	新入科生オリエンテーション
	1(月)	新入科生レッスン開始
7月	1(土)	オープンスクール音楽会にて演奏
	13(木)	テクニクテスト・グレードテスト
	14(金)	
8月	7(月)~31(木)	補講
9月	9(土)	第1回学校説明会にて演奏
10月	28(土)	ゲネプロ(記念音楽会)
11月	11(土)	ピアノ科120周年記念音楽会
	18(土)	第2回学校説明会にて演奏
12月	9(土)	(クリスマス音楽会)
	18(月)	グレードテスト(1)
2月	19(火)	グレードテスト(2)
	下旬	ピアノ科委員会 教師会
3月	3(土)	小学部発表会(1)…2、3、5年
	5(月)	幼稚園おさらい会
	9(金)	中高部発表会
	10(土)	器楽科とジョイント発表会
3月	15(木)	小学部発表会(2)…1、4、6年/ グレード修了証書授与式
	中旬	レッスン終了

●2006年度 グレードテスト課題曲

グレード	I級	II級	III級	IV級	V級	VI級
スケール等	スケール：2oct. G-dur, e-moll ♩=60~	スケール：4oct. B-dur, g-moll (和声的) ♩=72~	スケール、 アルペジオ： A-dur, fis-moll (和声的・旋律的) ♩=88~	スケール、 アルペジオ： E-dur, cis-moll (和声的・旋律的) ♩=108~	スケール、 アルペ、コード： Des-dur, b-moll (より当日1曲指定) H-dur, gis-moll (より当日1曲指定) ♩=120~	スケール、 アルペ、コード、 ブロークンコード： 全長音階より (当日1曲指定) 全短音階より (当日1曲指定) ♩=120~
エチュード (バイエル)	バイエル：No.98 ◇ No.100 ◇ No.105 より1曲	ルモアーヌ： No.30	—	ツェルニー 40： No.3	エチュード ex：ツェルニー40 の30番以降 クラマー・ ビューロー クレメンティー ツェルニー50 など	エチュード ロマン派以降除く
パッサカ (パッサカ)	スカララッティ： スケルツァンド	—	バッハ： インヴェンション 2声・No.15	バッハ： インヴェンション 3声・No.12	バッハ： 平均律より フーガのみ	バッハ： 平均律より プレリュード& フーガ
ソナタ (ソナタ)	—	ディアベリ： op.151-2 第1楽章	デュセック： op.20-6 第1楽章	モーツァルト： kv.333 第1楽章	ソナタ 第1楽章 古典派の中から 1曲選択	ソナタ 全楽章 古典派の中から 1曲選択
自由曲	1曲	1曲	ロマン派以降1曲	ロマン派以降1曲	ロマン派以降1曲	(1) ロマン派 (2) 近・現代 2曲
ソルフェージュ	初見 聴音…リズム 単旋律 和音	初見 聴音…リズム 単旋律 和音	初見	初見	初見	初見



ピアノ科の歴史

●初期の「西洋音楽科」の頃

一九〇〇年頃、生徒二〇〇名（寄宿生一〇〇名、通学生一〇〇名）中、ピアノを学ぶ生徒は二四、五名いました。ピアノ科は、随意科と呼ばれる中の一つで、ピアノは校内のあちこちに数台あるだけでした。同じ随意科の裁縫・習字・絵画などの授業中、レッスン時間になると、ピアノ科の生徒は目礼してレッスン室へ行き、二〇分程度のレッスンを受けていました。ピアノ科の月謝は月三円、練習楽器の使用料は月一円でした。ちなみに本科の授業料は月に一円五〇銭でした。

●ピアノ科主任

最初から戦前まで、ピアノ科の主任はカナダの宣教師が務められました。



ピアノ科創設の先生方（中央3人）
右より初代校長M.J.カートメル、S.A.ウインタミュート、モード・カックラン、スーゼ・カックラン、2代目校長E.J.スペンサー（Mrs.ラージ）

ミス・デイ（一九〇八〜一九一〇）は「西洋音楽科」を「音楽専修科」と改める他、音楽科の詳細な規則を制定されました。三段階の学級が設けられ、生徒は段階を踏んでピアノ・オルガンを学べるようになりました。グレードの進級試験やリサイタルも年一回は必ず行われ、卒業式にも演奏したという事です。

ミス・メルトン（一九一八〜一九二二）は優秀かつ厳格な先生で、ミス・ハミルトン（一九二二〜一九三〇）と共に東洋英和の音楽全盛時代を築きました。ミス・クック（一九三〇〜一九三六）、ミセス・ヘニガー（一九三六〜一九四三）の頃にはトロント音楽学校に倣った六学級区分のグレードがすでに取り入れられていました。当時は上級の生徒も多く、この時代だけで一〇人余りの生徒が卒業試験をパスし、四五〇分の卒業リサイタルまたはジョイント

リサイタルを行いました。歴代ピアノ科主任は表をご覧ください。

●戦争前後

戦争が激しさを増した二九四五（昭和二〇）年三月、ピアノ科は一時閉鎖になりました。ピアノの音が外に洩れるのは避けられる時代でした。しかし長野彌院長をはじめとする各方面の方々のお働きにより、一九四六（昭和二一）年四月には早くもレッスンを再開されました。生徒数三三名、教師三名でした。たちまち生徒数は一〇〇〜一五〇名となり、第一回リサイタルも再開されました。

●発表の場

学院創立六五周年記念リサイタル（一九四九（昭和二四）年）は、シヨパン没後一〇〇年ということで、「シヨパン祭」とし



ピアノ科主任
(1946~1979)
加藤信子



ピアノ科主任
(1930~1936)
D.クック



ピアノ科主任 (1910~1913)
S.R.コーテス

長年にわたり、カナダ合同教会婦人伝道協会主事、在日本カナダメソジスト宣教師社団理事などの要職を歴任。

●ピアノ科創設者

スーゼ・カックラン、モード・カックラン、S.A.ウインタミュート

●ピアノ科主任

1908~1910	I.デイ
1910~1913	S.R.コーテス
1913~1917	C.チャペル
1917~1918	フィップ
1918~1922	F.V.メルトン
1922~1930 (注)	F.G.ハミルトン
1930~1936	D.クック
1936~1943	E.C.ヘニガー
1943~1945	宮沢 愛
1946~1979	加藤 信子
1979~1989	大宮 暁美
1989~1996	藤岡 悠紀
1996~2005	最上 絢子
2005~	丸山もと子

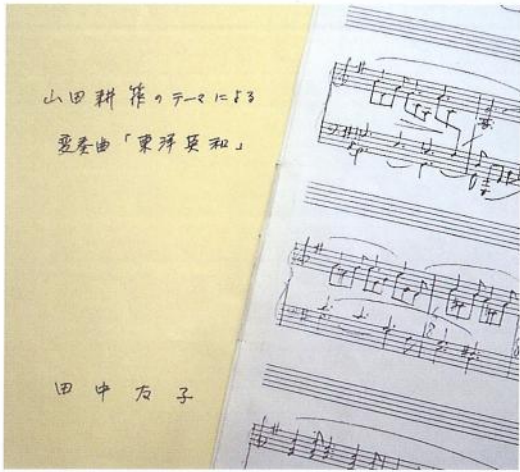
(注) F.G.ハミルトンが一時帰国された時、S.フルトン、E.カンニングハムが務める。



創立70周年記念音楽会 園児の連弾



創立65周年記念リサイタル「シヨパン祭」
前列 右から2人目 加藤信子主任 3人目 関原和子氏 4人目 長野彌院長



山田耕筰作曲「東洋英和女学院校歌」のテーマによる変奏曲
(東洋英和)



小学生のソルフェージュ・レッスン

ました。前半は生徒数名が、後半はピアニスト関原（現 永富）和子氏の演奏が行われました。（永富和子氏は小学生の頃英和で学ばれ、ピアノ科にも在籍しておられました。）この頃よりピアノ科も再び活気に満ちて来ました。また東洋英和女学院の創立を記念しての学院全体で開催された音楽会にピアノ科生も参加致しました。



園児のソルフェージュ・レッスン



中学生のレッスン

創立七〇周年記念音楽会
日本青年館
創立八〇周年記念音楽会
厚生年金会館
創立八七周年記念音楽会
渋谷公会堂
創立一〇〇周年記念音楽会
人見記念講堂



2006年ピアノ科教師
(写真上)
左より岩本靖子、吉川亜矢子、川口寿子、最上絢子、茂木恵、丸山もと子
(写真下)
左より大島裕美子、信田晴子、木村裕子、高野雅子、今泉真知子、千葉明子

幼稚園から高等部まで、独奏、連弾、二台のピアノによる二重奏や八手連弾等による演奏を致しました。ピアノ科だけの会とは異なり、大変に思い出に残るものでした。

「音楽会」「卒業リサイタル」「ピアノ科リサイタル」等、全校生徒の前でピアノ科生徒が演奏して共に音楽を楽しみ「リサイタル」は一九七〇年代まで行われていました。一九八六年には「ピアノ科一〇〇周年記念音楽会」を行いました。この時に、田中友子先生（現 今井、一九五二年卒・芸大作曲科卒・元ピアノ科教師）に委託して、山田耕筰作曲の校歌による変奏曲「東洋英和」というピアノ独奏曲を作曲して頂き、中学三年生の生徒が初演いたしました。技術的にも高度な作品ですが、ピアノ科の大切な財産として弾き続けていきたいと思えます。

現在では「ピアノ科発表会」が、三月に

各部ごとに行われています。保護者の方、お友達の前で全員の生徒が演奏致します。

●学院におけるピアノ科の役割

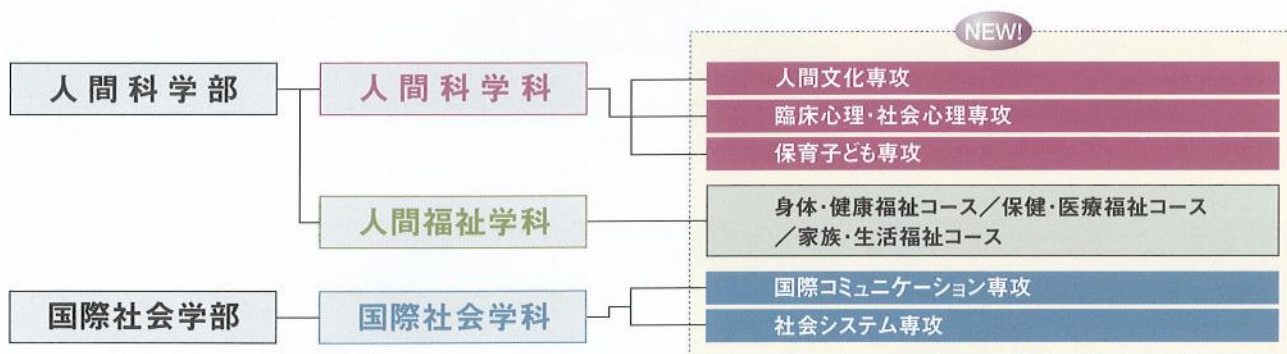
学院創立のわずか二年後に、我が校で西洋音楽の教育が始められたことは、日本の音楽教育の歴史から考えても大変に重要な事だと思えます。ミス・カートメルをはじめとするカナダの宣教師の先生方の信仰と祈りにより、今日に至るまで如何に多くの礼拝奉仕者、オルガニスト、ピアニスト、教育者、そして愛好家がここで育てられてきたことでしょうか。

東洋英和のピアノ科は、音楽の技術的・芸術的な面を育てるとともに、人格教育・情操教育・宗教教育においても深く心をくだいております。「敬神奉仕」の信仰の下に学院の一枝として、これからも変わらず大きな恵みにお応えしていきたいと思えます。

東洋英和女学院大学が変わります

2007年度より新しいカリキュラムがスタート

人間科学科・国際社会学科で専攻別の新しいカリキュラムとなります。
人間福祉学科では新たにコースを設けました。



*2007年度人間科学科・国際社会学科に専攻設置予定(届出中)

人間科学部

人間科学科 心理学・社会学・教育学・宗教学を基盤とした、リベラルアーツ教育で、人間を総合的に理解します。

- 人間文化専攻—文化・文明に対する幅広い知識・感性を身につけ応用・発信できる21世紀の教養人を育てます。
- 臨床心理・社会心理専攻—人間を内面から理解していく臨床心理系と、行動から理解していく社会心理系、二つの領域を中心に心理学を究めます。
- 保育子ども専攻—幅広い人間理解を修得し、専門性の高い保育者をめざします。

人間福祉学科 心身の健康から政策まで幅広く福祉を学び、専門職として活躍できる人材の育成を目標としています。

国際社会学部

国際社会学科 社会科学を中心とするリベラルアーツに基づき、実践力を備えた社会的視野をもつ女性を育成します。

- 国際コミュニケーション専攻—社会のグローバル化に対応し、英語でコミュニケーションを図ることができ、多分野で活躍する女性を育成します。
- 社会システム専攻—ボーダレス社会に対応し、複雑に関連した政治や経済のしくみを一つのシステムとして理解します。

ここが変わります！

資格取得の充実

- 幼稚園教諭一種免許状(*1)と保育士資格(*2)の同時取得が可能になります。

保育子ども専攻 (※1)再課程認定申請予定 (※2)指定申請計画中

- 中学校・高等学校教諭一種免許課程(*3)を設置します。

人間文化専攻(中学校 社会・宗教、高等学校 公民・宗教)
社会システム専攻(中学校 社会、高等学校 公民・地歴)

(※3)課程認定申請予定

- (公認)障害者スポーツ指導者、(認証)健康福祉運動指導者の取得も可能になります。

人間福祉学科

海外留学の充実

希望者全員を対象に学部留学・語学研修・国際インターンシップなどの海外研修を正規科目として実施します。

国際コミュニケーション専攻

専攻別入試がスタート

資格取得や海外研修などに備えて一年次から計画的に学習を進めていきます。

人間科学科(*4)・国際社会学科

(※4)人間文化専攻と臨床心理・社会心理専攻は一括募集し2年次進級時に専攻決定

二つのセンター誕生

新しい改革のために2006年4月に総合実習センターと国際交流センターを開設しました。(6ページ参照)

コース制設置

それぞれの関心や将来の希望に合わせてより深い学びができるよう、新たに2年次より3コースを設けました。

人間福祉学科

総合実習センター

総合実習センターが本年（2006年）4月よりスタートしました。現在、大学では、学生が各種の資格（社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、保育士、幼稚園教諭一種免許、学芸員等）の取得を目指して外部の施設、機関等で実習を行っています。これらの実習はこれまで各学科の責任で行われていましたが、資格取得希望の学生が年々増加するに伴い、学生指導の面における教職員数の面でも、実習指導のための部屋及び実習先の資料の保管等を含めた場所的な面でも、もはや限界にきていました。

さらに2007年度からの大学改革に伴い、新たに人間科学科の「保育子ども専攻」でこれまでの幼稚園教諭一種免許に加えて保育士の資格も取得できるようになることや、人間科学科や



国際社会学科の学生の中学・高校の教職の免許取得が可能になり、そのための実習が必須になること及び、職場体験をするインターンシップも単位化されること

になり、実習がますます拡大されることとなります。このように実習が全学的になることを背景に、実習に関する業務を一元化し、学生がより充実した実習ができるように支援することを目的に総合実習センターが立ち上がりました。

総合実習センターの場所はカルテットホール1階の奥に新たに設けられました。そこには実習指導助手4名、事務職員3名（うち1名は教務課長と兼務）、アシスタント1名のスタッフが常時いて、実習に関して、学生の相談にのったり、情報の提供を行ったりしています。また学生が実習先に提出するための書類を書いたり、あるいは実習先の資料を閲覧したりするなどの場所（テーブル8台、いす20脚ほど）も確保されていて、学生が自由に使っています。

実習する学生が増えていることに加えて、センターの場所がカルテットホールの奥にあることなどから訪ねやすいこともあるのか、今年度4月の発足以来、学生がひっきりなしに訪れていて、休み時間等は質問に来る学生が列をなすこともしばしばです。

この1年間は総合実習センターの基礎を作る時期で、2007年度からの新カリキュラムによる実習がよりスムーズな形で行われるように準備をしているところです。みなさんも是非一度いらしてください。

大 学

国際交流センター

希望者全員に海外留学を―二〇〇七年
度から始まる国際社会学部の改革の目玉で
ある。国際社会学部には二〇〇七年度から
国際コミュニケーション専攻（二二〇人）、
社会システム専攻（八〇人）が置かれ、国
際コミュニケーション専攻の学生は、希望
者全員が正規科目として海外留学・研修を
できることになる。

留学・研修は三種類。一つは、外国の大
学の学部留学して外国人と同じような授
業を受けることである。第二は、英、仏、
独、伊、スペイン、中国、韓国、タイの各
国の言葉を学ぶ語学研修制度だ。三つ目は
この語学研修に加え、海外でのインターン
シップ、ボランティア活動を体験すること
である。

留学・研修先は米、英、仏、独、伊、ス
페인、トルコ、カナダ、オーストラリア。
アジアでは韓国、中国、台湾、タイなど。
世界各国にまたがっており、学生はかなり
の選択肢をもつことになる。

留学・研修は二、三年次。半年間、ある
いは一年間留学しても四年で卒業できる制
度である。今年新設された国際交流センタ
ーを中心として「社会のグローバル化に対
応し、英語でコミュニケーションを図るこ
とができ、多様な分野で活躍する女性」を
育てる目的でこの改革の目玉がつくりあげ
られた。

国際交流の観点から特筆すべきは、今年
三月、トルコのイスタンブール郊外にある
イエディテペ大学との留学生交換協定が結



交換協定に調印するディクル・イエディテペ大学副学長

ばれたことである。これによってすべての
学生が応募できる留学プログラムが一つ増
えたことになる。同大学では、英語を授業
の正式言語として採用しており、大都市郊
外の静かな環境での寮生活も可能なため、
本学の学生にとって好適な留学先となりそ
うだ。留学生交換協定の調印式にはイエデ
イテペ大学からアテイラ・ディクル副学長
が、本学から国際交流委員長の黒岩徹・国
際社会学部教授が出席した。さらにオー
トラリア留学の新たな試みが始まった。こ
れまで留学生は、メルボルン大学付属ホー
ソン・ランゲッジ・センター修了後、メル
ボルン大学しか行けなかったが、ディーク
ンズ大学と二つの州立職業専門学校（大学
学部と同等水準）に

進学が可能となっ
た。留学の幅が広
がったといえる。

幼稚園は楽しい ― 庭での遊びより ―

チョコレート屋さん

最初は砂や泥に触れることに抵抗を感じている子どももいたが、最近では庭での泥んこ遊びや砂を使つてのごちそう作りがすっかり板に付いてきた子ども達。砂場や庭の真ん中にある黒土山の上では、毎日のように砂・土に水を混ぜたドロドロのチョコレート作りがさかんに行われている。チョコレート団子、カップで型をとったケーキ、花びらや葉を添えた特製プリン…と子ども達の腕は上がってきたのに、なぜかお客さんがやってくれない。

そこで「看板を作ったらどう？」と一人が提案した。「字はチョコレートで書くといいよね」今日も庭先に看板を立て、パティシエ達は一ト作りに夢中である。



(上) 台の上にお菓子を並べ、「お客様来てくれるかしら?」とお客様の来店を待ち望みます。
(右) 「本物のチョコみたいね」手足、顔までチョコレートをつけて泥の感触を楽しんでいます。



ガソリンスタンド

「いらっしやいませ〜。ガソリンスタンドです」と、元気な声が庭に響く。すると三輪車がガソリンスタンドに行列。透明なホースに水を注ぎタイヤのネジに流しあてるという仕組み。実際水は周りに流れ出ているのだが、すっかりガソリン口に注ぎ入れている感覚になっている。次の日、ある子どもがガソリンには種類があると主張。そこで水に絵の具で色をつけ、遅いガソリンと速いガソリンが完成。もちろん速いガソリンの方に長い列が出来た。遅いガソリンの給油者は、色を濃くすればお客さんが来るかも、と言う。するとそばで見えていた一人がどっちも速いガソリンにすればいいよ。その意見で話がまとまった。



(右) 「ガソリンまんたんでお願いします」「はい分りました」元気なかけ声が響きます。
(下) 水の中に速く走るガソリンの葉を入れました。「どちらのガソリンがいいですか〜?」



子育てを応援 ― 二歳児親子クラス (カンガルークラス) ―

大学付属かえで幼稚園

かえで幼稚園では二〇〇四年度より、幼稚園に行く前の親子を対象にした二歳児親子クラス (カンガルークラス) を行っています。一段と少子化が進み、様々な子育て支援が叫ばれている昨今、近隣の幼稚園では、未就園児に対しても早く子育てから開放されたいと願う親の希望で子どものみを預かる保育がなされているところが多くありますが、私たちは子どもと一緒にいる楽しさを共有しながら、子育てに意味や価値があることを伝えたいと願っています。一期を親子十組で五回参加できるクラスにしました。そのクラスを五期計画し、年間の延べ人数としては五十組が参加することになります。この二年間、カンガルークラスを体験した人が三歳児の入園を希望してくださるのも嬉しいことです。

金曜日の朝、かえで幼稚園にカンガルークラスの方たちがバッグに出席カードとお母さまに名前を刺繍してもらったランチョンマットを持ってやってきました。幼稚園の二階をカンガルークラスの保育室にしています。

お母さまたちは、子どもの遊んでいる傍らで羊毛ボールを作ったり、子どものことを元園長の土橋先生を聞いて語りあいます。子どもたちは、お母さまの近くで安心して小麦粉粘土やままごで遊び始めます。お母さまたちはここで



羊毛ボールを作るお母さまたち



作ったお弁当をもってピクニック

は、大きな声で子どもを叱ることはしません。子どもが呼べばいつでも子どもの方に向いてやります。母も子も幸せな時間を過ごします。

お弁当を作ってピクニック

五回あるうちの一回は、朝からお弁当作りの講習会です。初めてのお弁当を緊張しないで楽しく作る体験を考えました。出来上がったお料理の色どりを考えながら、わが子のお弁当箱につめて、隣の公園に出かけます。「皆で食べると、子どもたちは良く食べるのですね」「初めてのお弁当作りにドキドキしていたのですが、皆と作れてよかった」と若いお母さまたちの感想でした。

穏やかな空気の中で、子どもがいる生活の楽しさを味わいつつ、いつも、見守られている安心感を母も子も持つことができる時間を過ごします。それが、小さな子どもを育てる応援だと、私たちは考えています。

韓国の小学校との交流

小学部英語科 町田協子

五月の連休に、韓国ソウル市の梨花女子大学附属初等学校(Ewha University Elementary School)を部長・教頭と共に訪問しました。英和の六年生が書いた英語の手紙も持参し、韓国の先生によって、一人ずつペンパルの名前が読み上げられ、その手紙が韓国の六年生に手渡される様子を見て、四年目を迎えた英語科の交流プロジェクトの成果に感慨を覚えました。

二〇〇〇年二月に東洋英和女学院大学と梨花女子大学が姉妹校提携を結んだことを契機として二〇〇一年二月、小学部から交流を望む手紙と学校紹介のビデオやパンフレットを初等学校にお送りしました。その



校舎の入口で：校長・教頭・副校長先生とご一緒に

後、校長先生より、「何か交流をもちましたよ。」というお手紙をいただきました。二〇〇三年一月になると、教頭先生を含む六名の先生方が小学部を訪問され、授業をご覧いただいたり、給食も共にしてくださりました。

英語科として、児童の英語学習の一助にと、十一月、当時の六年生で興味がある児童に英語で手紙を書かせてみました。するとしばらくして、全員に韓国の六年生から返事が届きました。返事を渡した時の児童の表情は、嬉しさに輝いており、他方、手紙を出さなかった児童は羨望のまなざしでいることが手に取るよう分かりました。手紙の英語のレベルは大変高く、児童はもちろん英語科の教員も驚きました。翌年度からはカリキュラムの一環として、自己紹介の手紙を六年生全員が書き、送ることにし、口頭では表現できるようになっている自己紹介の言い方を改めて復習したり、また、返事を読むこともよい学習となりました。ちょうど韓流ブームと重なり、韓国の俳優が映画やテレビドラマ等を通して身近になっていくことで、韓国に興味をもちやすい環境も整っていました。なかにはせっかく手紙を送っても返事をいただけない児童もありましたが、中学部に進学してから「返事はまだ届かないのかしら。」と尋ねてくるほど、児童は返事を楽しみにしておりました。

「日本からも是非来校をお待ちしています。」

す。」と度々お誘いを受け、昨年四月には創立五十周年式典にもお招きくださいました。が、ちょうど始業式と重なり、韓国訪問もなかなか実現しませんでした。しかし、ついに今年五月上旬に、訪問する機会を得ました。

校内を案内していただいた時にすれ違う韓国の児童が、口々に「アンニョンハセヨ」また日本語でも「こんにちは」と挨拶してくれ、挨拶指導の徹底ぶりを感じました。梨花女子大学は一般の女子大学とは異なり、教育学部、理学部、医学部でもつ名門です。小学校の施設もテレビ局のような放送スタジオがあり、私たちも六年生から校内放送のためのインタビューを受けました。昨年度開校創立五十周年記念事業として、小学校内にはプラネタリウムまで設置されていました。また「梨花初等教育センター」という名の広い史料室があり、小学校の歴史が映像や展示物で紹介され、また児童の合唱や発表会、文学作品を朗読したもの等がパソコンを通して聴けるようになっていました。

帰国後すぐに、六年生に韓国の小学校の様子を伝えました。給食室に全員が入れないので、低学年が先に給食をいただいている間、高学年はまだ授業をしており、しばらくして入れ替わること。お祈りの部屋という小さい部屋があり、聖書が置いてあって、教員も児童も休み時間に自

由にお祈りのために使用できること。また日本の漫画は韓国でも人気があり、廊下の掲示物に日本のアニメの絵が描かれていたことなど、興味深げに話を聞いていました。その後、訪問の際に直接お届けした六年生からの手紙には、早速に返事が届き始めました。自分が英語で質問したことに答えてもらえることに喜び、「来週テストがある。」という身近な話題に親近感を覚え、竹島問題について意見を求められて考え込んだりしています。英語学習のよい励みになっています。

現在は六年生のお手紙交換を進めておりますが、韓国の英語科の先生とも話し合いをもち、今後は他学年でも簡単な交流もてるよう、計画することになっております。児童の図画などの交換展示や教育資料の提供も行いましたが、やがては英語科だけでなく、学校生活の様々な場で児童や教員の交流の機会ができることを願っております。



お祈りの部屋：休み時間に自由に使えます



廊下の掲示物：日本のアニメも人気です

小学部

鑑賞行事 — 本物に触れる —

中学部教頭

石澤友康

「最後に思いっきりピアノが弾きたい」静まり返った大講堂にベートーヴェンのピアノソナタ「月光」が鳴り響きます。黒布を敷き詰め、照明を落としたステージ上で四人の演者によって繰り広げられた朗読劇のフィナーレです。太平洋戦争末期、音楽を愛する学徒出身の特攻隊員ふたりが佐賀県鳥栖市の小学校で今生の別れに「月光」を弾いて、沖繩の空に出撃して行った物語です。引き込まれるように劇を鑑賞する中学生たち。無念にも戦争に関わらざるを得なかった人々の思いを、涙を浮かべながら聞いている生徒も大勢いました。今ある平和がいかに尊いもので、命とはいかに重いものなのか、ひしひしと伝わってきます。六月九日（金）、中学部では劇団東演による朗読劇「月光の夏」を鑑賞しました。この日は中間試験が終わった翌日で、花の日礼拝のあとに実施されました。鑑賞行事は中学生が楽しみにしている学校行事のひとつです。

鑑賞行事は中学部において年二回実施しています。いずれも六月と十二月の中間試験の翌日です。鑑賞行事の目的は、生徒達が「本物に触れる」経験をすることです。本物の音楽、本物の演劇、本物の講演を体感することで、豊かな感性が育まれていき、そして高い教養に結びつくものと期待しています。柔らかな心を

持つ中学生にとってこのような行事も大切と考えています。

これまでも様々な鑑賞行事が行われてきました。その中で国語科主催で狂言教室を三年に一回は必ず行っています。昨年十二月の狂言教室は九世野村万蔵さん一門によるものでした。はじめに狂言の約束事の動作・表現の説明、さらにストーリーを解説してもらった後に演目を観ることになりました。演目は「盆山」「泉山伏」。生徒達が手を叩いて笑ったりする場面もあり十分に内容を理解して愉しんでいたようです。普段生徒がテレビで目



朗読劇「月光の夏」：平和の大切さ、命の尊さを改めて感じる機会になりました

にする芸能とはまったく質を異にする本物の古典芸能に触れることができました。野村家一門の方々には長く中学部の狂言教室に携わっていただいています。日本の伝統文化の狂言ですが、自分ではなかなか足を運び観ることはないかもしれません。鑑賞行事でのこの機会が大変貴重なものとなっています。

また一昨年にはアルピニストの野口健さんによる講演会を行いました。野口さんは七大陸最高峰世界最

年少登頂記録をもっています。登山をはじめたきっかけ、波乱に飛んだ中高生時代のエピソード、体験した若しか語れない出来事などユーモアを交えて講演してくださいりました。その講話を通して生徒たちが人の生き方を考える有意義な時間となりました。

このように中学部では鑑賞行事を通して、普段の学校生活や授業ではなかなか味わえない文化を体験します。そしてこれらが生徒の成長の糧となることを願っています。

● 中学部鑑賞行事一覧表（過去6年間）

年	6月	12月
2001	音楽鑑賞 Two Tenors	人形浄瑠璃 ゴスペル・イン・文楽「イエスの生涯」
2002	音楽鑑賞 混声合唱 栗山文昭主催	狂言教室 「盆山」「蝸牛」八世野村万之丞
2003	日本舞踊 西川祐子	音楽鑑賞 交響楽団レボリューションアンサンブル 指揮：田中千香士
2004	朗読 どこでも朗読館 松丸春生・西川小百合	講演会 野口健（アルピニスト）
2005	音楽鑑賞 救世軍ジャパン・スタッフ・バンド	狂言教室 「盆山」「泉山伏」九世野村万蔵
2006	朗読劇 「月光の夏」劇団東演	音楽鑑賞（予定） 日独青少年交流コンサート



狂言教室：野村万蔵さん一門による「泉山伏」。本物の伝統文化に触れることができました

神は細部に宿る

前生涯学習センター長代行 太田良子

このコラムには、センター講座の紹介などを書く例が多かったが、今回は私自身が足掛け十年、たくさんセンター講座を担当した中で、やや手ごたえを感じたクラスの話をしてみたい。大人になってから学び読書することが、いかに細部が見えるものか、その細部がいかに美しいか、そして、細部が見えると脳細胞が動き出す、それが受講生の方々の表情に出る、その実感をお伝えできればと思ったからだ。昨年の冬の講座「人生にとって死とは何か」で、私は菊池寛の「身投げ救助業」という短編をテキストにした。私のクラスでは朗読も主要項目なので、受講生の方々にまず朗読していただいた。

この短編は、京都の疎水の近くに住む茶店の老婆が、疎水で入水自殺をする人を長い竿を使って助けるようになり、そのたびに国から出る報酬金が一円五十銭。彼女はこれを神棚に上げて二、三度手を叩き、「私もこれで人さんの命をよっぽど助けているさかい、極楽へ行かれますわ」と言う。そしてこれを郵便貯金にして三百円ほど貯めていた。いずれは一人娘を遠縁の誰かと結婚させて、茶店を大きくしてやろう。ところが、この娘が嵐扇太郎という旅役者と駆け落ちし、もちろん母親の貯金通帳を持ち去って行ってしまふ。いくら待っても娘は行方知れず。絶望した老婆は橋から身を投げるが、救助さ

れる。「老婆は、その男が自分を助けたのだと気のついた時、彼女は掴みつきたいほど、その男を恨んだ。老婆はそれ以来淋しく、力なく暮らしている。泥のように重苦しい日が続く。」でこの短編は終わっている。この老婆は、お金を神棚に上げて手を叩き、人を助ければ極楽に行ける、という程度の宗教心はあったようだ。だが、命を長らえたあとの老いの日々、死や天国が近づいた時になって神も仏も見えず、「泥のような重苦しい日々」を生きている。この老婆という人間が、そして老婆のこの宗教観が、わが国の宗教観を問わずも代弁していないかと、私はクラスに問い掛けてみた。受講生の方々はこの短編の一字一句にまた目を落としていた。ちなみに、西洋の小説では、名前のない主人公は「読者」つまり「あなた自身」であるという暗黙の了解がある。旅役者だけがフル・ネームで出ているが、老婆も老婆を助けた「その男」も無名である。四十がらみの見知らぬ男は誰か、短編ながらさすがは菊池寛である。次のクラスでは、「ガリヴァー旅行記」の第三部の「不死人間」の章を読み、老いさらばえても絶対に死ぬことのできない人間の悲惨を見た。読者は一人でもできるが、一人ではとうてい見えない細部がある。生涯学習センターで共に細部をみませんか。

計報

東洋英和女学院大学初代学長、常務理事の朝倉孝吉先生御逝去

1989年4月から1999年3月まで10年間、東洋英和女学院大学の学長を務められ、常務理事でいらした朝倉孝吉先生が6月18日、肺炎のため、天に召されました。7月15日に聖イグナチオ教会で行われた「故 朝倉孝吉氏お別れの会」では、卒業生や学院関係者が集まって、先生とのお別れを惜しみつつ、在りし日を偲びました。

後援会総会

2006年度、後援会役員会及び総会が6月23日(金)、東京全日空ホテルに於いて開催されました。すべての議案が承認され、本年も学院に対して教育充実助成金を寄附して頂くことになりました。長年に亘り会計監事としてご尽力頂き、任期満了のため退任されました武田茂氏に学院から感謝状と記念品を贈呈いたしました。今年度の正副会長及び会計監事は次の各氏に決まりました。

会長 横山 巖 (継続)
副会長 安藝祐一 (再任)
金子栄一 (継続)
神谷直彌 (継続)
田中嘉一 (継続)
会計監事 永澤宏一 (新任)



2005・2006年度正副会長及び会計監事

三英和懇談会

第4回目の三英和懇談会が7月22日(土)に東洋英和女学院で開催されました。三英和とともに、カナダ・メソジスト教会婦人伝道会社によって創られました。静岡英和女学院からは、理事長他6名、山梨英和女学院からは理事長他5名、東洋英和女学院からは理事長他13名が参加しました。開会礼拝、各校報告の後、「ミッションスクール経営とガバナンスについて」という池田守男東洋英和女学院理事長の発題と各校の報告に基づき活発な討議と和気あいの懇談の時がもたれ、意義深い一日となりました。

池田守男理事長「新渡戸・南原賞」受賞

池田守男理事長が第3回新渡戸・南原賞を受賞し、6月5日に青学会館にて授賞式が行われました。受賞理由は、若き日に新渡戸稲造の著書に親しみ、その精神を生かし資生堂という大きな企業を経営したこと、またキリスト教精神に基づくいくつかの学校での活躍によるものです。

池田理事長は「私は日本人のキリスト者としてどう生きるべきかを考えていた19歳の時、新渡戸稲造の『武士道』に出会った。その中で武士道にキリスト教の精神を接木するという考え方を知り、これぞ日本人としてのキリスト者の精神と思った。年を経て2001年の元旦に再びこの本に出会い、日本は欲望社会から名誉国家へ武士道の精神をもって見直されるべきであると痛感した。以後、歩むべき方向・精神のバックボーンを暗中模索するような人生の節目節目で『武士道』をひもとき、新たなステップを歩んでいる。南原先生は私と同じ香川県人で、東京香川県人会で先生の活動のお手伝いをした。南原先生を通じ新渡戸先生のことも教えて頂いたのは大きな財産である。お二人の



精神を私なりに引き継がせて頂き、新しい21世紀を作っていききたい」と挨拶しました。

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.05

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)
(生涯学習センター講師)

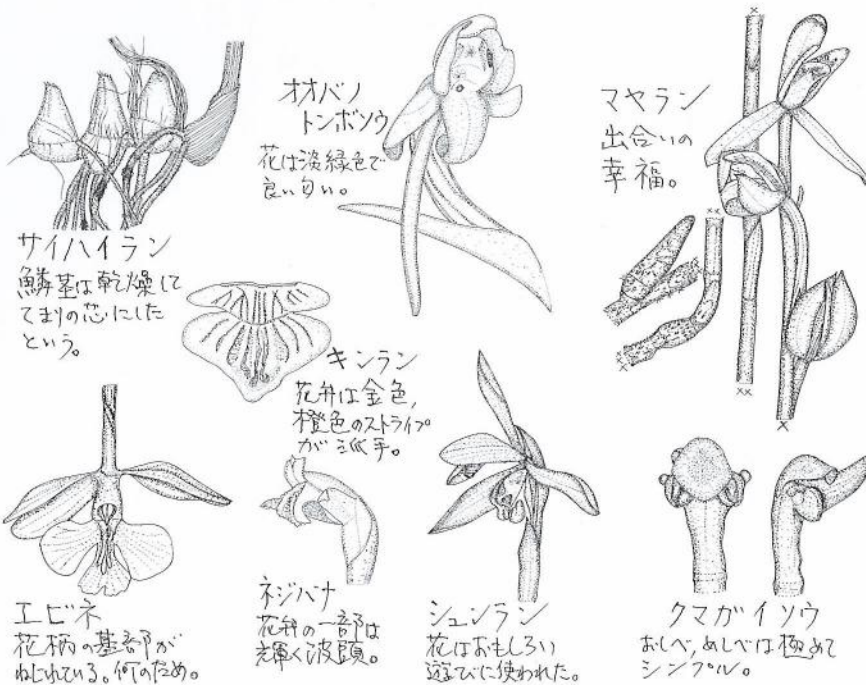


タシロラン

タシロラン (田代蘭)

春から夏にかけて横浜キャンパスでは蘭の花が次々と咲く。シュンラン、エビネ、サイハイラン、クマガイソウ、キンラン、ギンラン、ネジバナ、オオバノトシボソウ、タシロラン、マヤランの賑わいである。

蘭は世界中に約2万種が分布し、花の色、形、大きさ、匂い、葉の様子、生育環境など千差万別である。タシロランは夏の一時現れる。葉緑素を欠き、全草淡いクリーム色、花卉の一部は淡いピンク色をしている。ほの暗い杉林下に何百株と生育する様子は幻想的。目線を低くして眺める。まさに至福の時である。



文化祭のお知らせ

中高部 楓祭

●10月20日(金)・10月21日(土)
9:00~15:30

*受験希望者の小学生と付添いのご家族の見学が可能です。当日、受付にお申し込みください。
*個別の入試相談コーナーもあります。

大学 かえで祭

●11月2日(木)・3日(金・祝)
10:00~15:00

*進学相談会を実施します。専任教員・在学生による個別相談、資料配布なども行います。

中高部 TEL 03-3583-0696
大学 TEL 045-922-5511

東洋英和女学院学院報 楓園 第45号

発行日：2006年9月1日
編集：学院報編集委員会
発行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3325
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.toyoeiwa.ac.jp/

東洋英和同窓会総会報告

同窓会より

「同窓会にあまり知られていない英和の素晴らしいところを発見しよう」を今年のテーマとして来しました。今年は大学院にスポットをあてたプログラムを計画しました。



池田理事長には礼拝での奨励を、鮑戸学長にはご挨拶をお引き受け頂き、大学院終了生(高橋克樹、徳増有希、福島世子、植崎梓)に「英和の大学院で得たもの」についてスピーチを、安達富美子さんからは看護師として社会で長く活躍されてきた体験を元にお話と救急法の実演がありました。その後のお茶の会では理事長と学長を囲んで話が弾み、また同窓会、中高部母の会、野尻支援の会から英和グッズの販売があり、親睦を深める事が出来た楽しい総会でした。

★同窓会クリスマス礼拝予告
月日：二〇〇六年十二月二日(土)
場所：東洋英和女学院六本木校地

野尻キャンプサイト一部改築決定

野尻キャンプサイトの英和ハウス(管理棟)、寺ヶ崎ハウス(ゲスト宿泊棟)、浴室・トイレ棟の改築が、ようやく今年の夏期行事終了後に始まり、来年6月に竣工することとなりました。12年前に生徒の宿泊棟が清潔で明るいキャンピングに生まれ変わったのですが、その他の建物は諸般の事情により改築には至りませんでした。野尻は豪雪地帯で湿気も多く、竣工後36年経過している木造建物の老朽化は激しく、安全や衛生面からも問題が多く出ていました。近年保護者のお父様方が修理や整備を重ねてくださり、また卒業生が中心になって献金を続けて頂いていたなかで、野尻施設の改築を念願する声が多くなってきました。野外教育は戦前から行われている東洋英和の特色ある教育の一つです。在校生のみならず、そのご家族や卒業生たちにも広く利用していただける施設になることを願っています。今後、メインホール(食堂・集会棟)も改築する予定です。

お知らせ